



庶民の会
ほんだ まつひろ
本多 松弘 議員

アフターコロナ

Q 大手門市を受け、これからのイベントも動き出した。景気の回復には雰囲気づくりが大切だと考えるが、本市のアフターコロナの取組についての考え方は？

A 大手門市は2日間で約1万人来場。精霊流し、花火大会も3年ぶりに開催予定。しばらくは感染症に万全の対策を講じながらも交流が活発になるよう、いろんなことに取り組んでいきたい。

Q コロナ禍の避難所運営について。分散型避難、ペット同伴避難所の進捗、防災備蓄の自治体間連携の取組は？

A 3密回避、感染対策に備える必要があり、多くの避難所に分散避難をしてもらう予定。ペット同伴避難所は必要と考え、指定に向け引き続き取り組む。県内外16か所と応援協定を結んでおり、今後も広域的連携に取り組み、災害に強い市を目指す。

持続可能なふるさと納税

Q 独自サイトの検討と島原城400周年に向けたクラウドファンディング型ふるさと納税はどうか。

A 大手サイトは圧倒的なシェア、アクセスがあり、幾つか組み合わせでやっていく必要があると思う。クラウドファンディングも寄附型、謝礼型、投資型とある。心意気や背景が見えるほうが集まりやすい。どういう言葉で、どういうタイミングで発信したほうがいいのか検討中。

持続可能な公共施設

Q 必要な方に利用いただく観点から、市営住宅の入居選定方法の見直しが全国的に行われているが、本市の対応は？

A 選考については順位を定め難い場合が多く、抽せんによる選考が現状。今後は困窮度合いを点数化できないか検討したい。

Q 簡保保養センター跡地の現状と今後について。学校なども近く、傾斜地なので危険がないようにしてほしい。

A 今年3月に施設の廃止が決まり、現在は売却に向け進められていると聞くが、今後の経過を注視したい。安全管理は申し入れたい。

【その他の質問項目】

- ◇観光振興による経済回復
- ◇ウオーキングアプリの進捗
- ◇島鉄廃線跡地の進捗
- ◇舞岳山荘の進捗



実践クラブ
きたうら もりかね
北浦 守金 議員

水産業

Q 水産業の現状は。

A 海面漁業は漁獲量のピーク時（昭和48年）と比較し1割台にまで減少。ここ10年間でも、漁獲量は約5割、漁業協同組合の組合員数も約6割にまで減少。若い世代の漁業離れが深刻。

Q 元気で活気ある水産業のために何が必要か。

A 元気で笑顔あふれる漁村の創出が必要。漁業者がやりたいことを強く応援すべき。県の指導を踏まえ漁協とともに研究し活性化していく。

Q ロシアのウクライナ侵攻やコロナの影響もある。支援策は。

A 本年度、漁業用燃油高騰対策事業等を行っている。今後も国・県の事業を注視している。

Q 漁船漁業と養殖と一体的にできる環境づくりなど、漁業形態の改善も必要では。

A 国に島原の地先で種苗育成施設等が可能ではと要望継続中。沖だけでは厳しい。施設運営と漁船漁業など、組合わせてやっていく方針。

Q 島原市陸上養殖施設、①状況は。②施設での中間育成事業は大変意義があったと思うがどうか。

A ①施設は閉鎖。②中間育成等の事業は重要で県等の組織と一緒にやっている。

Q アワビの養殖事業、①状況は。②餌として野菜くずを活用しては。

A ①島原漁協が三会地区で継続。経営改善計画を策定、令和3年度販売額は約730万円、計画の84%。②県や漁協と協議・研究する。

Q 有明海のマイクロプラスチックの調査は。ぜひ実施を。

A 調査は行われていない。関連する国の基本方針があり、その実現に向けて働きかけたい。

人口減少問題

Q 本市の人口減少対策、評価は。

A 一定の効果があっている。

Q 子供を産み育てる若年世代の支援を。

A 経済的な応援のための施策は展開中。今後、力を入れたいのは働く場所の確保。

Q いろんなアイデアで対策に取り組むべき。若年女性にアンケートを実施してはどうか。

A 検討させてほしい。